

バース市のウォーターフロント開発について

鹿児島大学工学部 学生員 山下哲也
鹿児島大学工学部 正会員 北村良介

1. まえがき

バースは世界で最も美しい街の一つであるといわれている。それに最も貢献しているのがスワン川である。この類のない自然環境はバース都市域の発展、人々の生活様式に大きな影響を与えている。緑化されたバース市を中心部の水辺は最も重要な特徴の一つであり、類のないイメージやアメニティを市中心部に醸しだしている。本研究は1980年代に行われたバース駅周辺部の再開発に引き続き、隣接したスワン川のウォーターフロントの開発計画の中間報告を参考にバース市のウォーターフロント開発における現状を探っている。

2. 研究対象地域の境界

研究される地域は中心地域に隣接したNarrows橋からCausewayの間のスワン川水辺部分から構成されている（長さは、約3.5km）。この土地の大部分は植民地の開始以来、川を埋め立てたものである。この研究地域は水辺に隣接するスワン川の一部と水際から約100mに及ぶ地域をも含む（図-1参照）。

3. 歴史的背景

川や水辺の開発の歴史的な背景に注目すると特色ある期間が確認できる（図-2参照）。

4. 現在の状況

対象となる地域は西側ゾーン、中央ゾーン、東側ゾーンの3つのゾーンから構成される（図-1参照）。

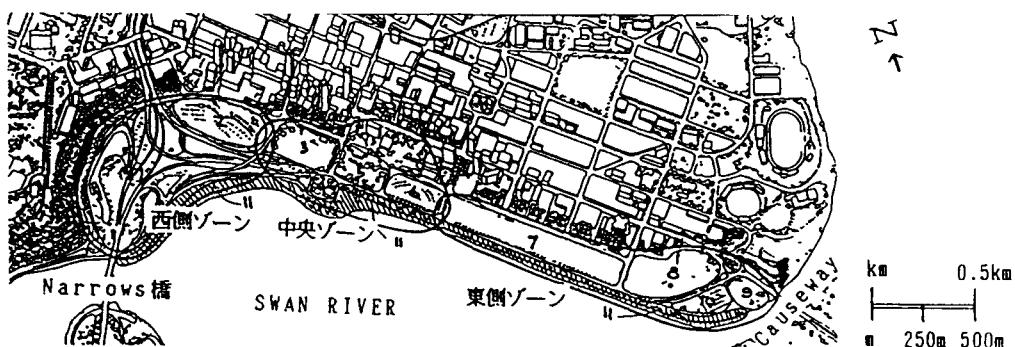


図-1 研究対象地域とゾーン分布

問題点一覧

- (西側ゾーン) : 道路によって作り出される地形のために川までの視界はインターチェンジ内やMounts Bay Roadに沿った所からは限られている。
: 植生は外来種、自國種などに細分化され、景観の中へ道路システムを視覚的、物理的に取り込むのに十分なスケールではない（多くの地域は開放的でまばらに植物が植えられている）。
: 駐車場は様々な種類の植物の陰によって部分的に作られているが、駐車した車の反射光や交通騒音があり、健康にも悪い。
- (中央ゾーン) : ベンチや芝生に座っている人から見た川端はインターチェンジまでの上りのアプローチによって遮られる。
: バス、車、歩行者の区切りがなく混合している。
: 最高裁判所周囲のフェンス、最高裁判所の駐車場のアスファルト舗装した部分はその地域のポテンシャルから魅力を無くしたり、減じたりしている。
- (東側ゾーン) : ABC鉄塔は隣接する建物にとって不調和な要素である。

オーストラリアの西海岸がイギリスの植民地として宣言された時、スワン川が最初の入植地として選ばれた（バースは港町Fremantleと農業地域Guildfordの中継地点として発達した）



砂地の沿岸域は明かに陸上交通を困難にさせたので、バースへの入植は川を利用した輸送に依存した



港の施設の拡大、フェリーの定期便・観光船操業

商業・住宅地はウォーターフロントに集中



1881年 Fremantle～Guildford間の鉄道の開通

(輸送)
(1900年代)

(レクリエーション)
(1900年代)

- バース市の水上輸送への依存度はかなり減った
- 駅はバース市に新しい仕事場を与え、港は機能していたけれど川から人々の興味を反らした

川の埋立地をレクリエーション活動の場として利用した（レクリエーション活動のための川や水辺への需要の増加による）

- 水泳場
- ヨットクラブ
- ポートクラブ
- 飛行艇クラブ

(1930年代) ↓ 車の出現

(1930年代)

最も基本的な交通手段である車の出現に伴って川や関係のある活動に対する影響が明白になった

レクエーションは水辺の活動の中で卓越した地位を占め、埋立地は大規模なオープンスペースを作り出す

- 公園
- スポーツ施設
- ポートクラブ
- レンタルポート

(1970年代) ↓

(1970年代)

- 公共輸送（フェリーサービス）使用は衰える
- 都市の駐車場の需要の増加

郊外のスポーツ施設の拡張と同様、より積極的に自然を取り込むことを採用した。水辺のオープンスペース地域は公園の設置により、都市に対して貢献しようとする傾向がある

- サイクリングロード
- ポートクラブ

図-2 パース市の歴史的背景

5. あとがき

パースのウォーターフロントのアプローチはレクリエーション部門、交通部門（自転車、歩行者、自動車、駐車場等）、景観部門、自然保護などかなり多岐に渡っている。最終的には昨年5月締切のコンペの結果が近々発表される予定である。我々はこれらの資料を総合的に評価し、鹿児島市、県のウォーターフロント開発手法に役立てていきたいと考えている。

（参考文献）

1) The Central Perth Foreshore Study Group: Central Perth Foreshore Study Interim Report, 1985.